

(別表第1の3)

[認知症対応型共同生活介護用]

1. 評価結果概要表

作成日 平成 19 年 11 月 16 日

【評価実施概要】

事業所番号	3870500810		
法人名	社会福祉法人 はびねす福祉会		
事業所名	グループホーム おてだま		
所在地	新居浜市若水町1丁目9番13号 (電話) 0897-31-5000		
管理者	田坂 愛子		
評価機関名	愛媛県社会福祉協議会 利用者支援班		
所在地	愛媛県松山市持田町三丁目8-15		
訪問調査日	平成 19 年 9 月 18 日	評価確定日	平成 19 年 11 月 16 日

【情報提供票より】 (平成 19 年 8 月 20 日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 14 年 4 月 1 日		
ユニット数	3 ユニット	利用定員数計	27 人
職員数	23 人	常勤 18 人, 非常勤 5 人, 常勤換算	19.06 人

(2) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	39,000 円	その他の経費(月額)	円
敷金	有()円 ○ 無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有()円 ○ 無	有りの場合 償却の有無	
食材料費	朝食	280 円	昼食 600または実費 円
	夕食	500 円	おやつ 円
	または1日当たり	1,380 円	

(3) 利用者の概要 (平成 19 年 8 月 20 日事業所記入)

利用者人数	27 名	男性 名	女性 27 名
要介護 1	5 名	要介護 2	10 名
要介護 3	10 名	要介護 4	1 名
要介護 5	1 名	要支援 2	名
年齢	平均 84 歳	最低 69 歳	最高 96 歳

(4) 他に事業所として指定等を受けている事業及び加算

指定	あり	指定介護予防認知症対応型共同生活介護
指定	なし	指定認知症対応型通所介護
届出	なし	短期利用型共同生活介護
加算	あり	医療連携体制加算

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

商店街に面した5階建の総合福祉施設の4階にあるホームである。4階エレベーターホールは野点の傘が立ち、各ユニットの入口は民家の玄関風である等、のどかな佇まいがある。ホーム内は鉢植えの植物・草花が多く、利用者の作品が飾られ、居室に障子を使用する等、ゆったりくつろいで過ごせる雰囲気がある。ホームは開設6年目で、職員は、利用者の役割や楽しみごとを大事にし、特に利用者の力量を信じて待つ支援を心がけている。利用者職員はともに調理、鉢植えの世話、体操、歌等を楽しみながら、仲良く、落ち着いた生活を送っている。

【質向上への取組状況】

▼ 前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況 (関連項目: 外部4)

前回評価を受け、運営理念の地域への啓発や介護計画への利用者・家族の意見の反映を心がけ、運営法人から配食されていた食事を、昼は利用者とともに調理し一緒に食べることとし、ケアや支援体制の学習を深める等の努力をしている。なお、市町村との連携や夜勤が2ユニットで1人体制の再検討を期待する。

▼ 今回の自己評価に対する取り組み状況 (関連項目: 外部4)

管理者や職員は外部評価の意義を十分理解し、自己評価を全員で行ない、日々のケアの取り組みや振り返りに役立ったと考えている。

▼ 運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み (関連項目: 外部4, 5, 6)

運営推進会議は定期的に行われている。討議内容は認知症の理解、行事や職員の異動報告、利用者・家族・地域の人々・その他参加者からの意見の聞き取り・検討等である。利用者・家族・その他参加者の意見や地域行事へのお誘い等はホームの運営に活かしている。

▼ 家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映 (関連項目: 外部7, 8)

家族の意見は、面会時や運営推進会議への出席時、ホーム内の意見箱等から把握し、運営に反映させるよう努めている。内部の苦情・相談窓口は文書に明記し家族に説明しているが、第三者機関の相談窓口は示されていないため、第三者機関の相談窓口を明記し、家族に説明していくことを期待する。

▼ 日常生活における地域との連携 (関連項目: 外部3)

地方祭に参加し、地域の文化祭に利用者の作品を出品し、近くの児童センターとの交流を図る等、地域との連携を深めている。婦人会から手作りのお菓子や作品が届くこともある。

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

I. 理念に基づく運営

1. 理念の共有
2. 地域との支えあい
3. 理念を実践するための制度の理解と活用
4. 理念を実践するための体制
5. 人材の育成と支援

II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援

III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

1. 一人ひとりの把握
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し
3. 多機能性を活かした柔軟な支援
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

1. その人らしい暮らしの支援
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり

V. サービスの成果に関する項目

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー
 “愛媛県地域密着型サービス評価”

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議の上記入すること。
 - 各自己評価項目について、「取組みの事実」を記入し、取組みたいに※を付け、適宜その内容を記入すること。
 - 「取組みの事実」は必ず記入すること。
- (注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含む。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含む。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含む。

事業所名 グループホームおてだま

(ユニット名) 紙ふうせん

記入者(管理者)
氏名 田坂愛子

評価完了日 平成 19 年 3 月 30 日

(別表第1)

自己評価及び外部評価票

【セル内での改行は「Alt+Enter」です。】

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	(自己評価) 独自の理念はあるが、地域内でのサービスをうったったものではない。 (外部評価) 職員全員で話し合っつくれた理念であり、分かりやすく、利用者が地域の中で暮らしていくことを支える理念である。	※	理念の見なおしを検討している。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	(自己評価) 毎日申し送りで理念を確認しあっている。カンファレンスなど常に理念を意識した話し合いをしてケアプランにいかしている。 (外部評価) 管理者と職員は、申し送り時に理念の確認をするとともに、毎日のケアの振り返り時に、理念を意識するように努めている。		
3		○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	(自己評価) 家族への説明は折に触れ行っているが、地域への取り組みはわずかしかできていない。	※	いろいろな形で地域とかかわり、理念を伝えていきたい。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. 地域との支えあい					
4		○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	(自己評価) 散歩や買物では、挨拶や話しをしたりできているが、事業所がビルの4階にあるため入りにくさは否めない。		
5	3	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	(自己評価) 自治会の文化祭、児童センターの子供達との交流などに取り組んでいる。 (外部評価) 地方祭に参加したり、地域の文化祭に利用者の作品を出品したり、近くの児童センターとの交流を図ったりしている。地域の婦人会から手作りのお菓子や作品が届くこともある。	※	児童センターの子供達とのつながり、地域の伝統行事への参加などさらに交流の機会を増やしていきたい。
6		○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	(自己評価) 実習生の受け入れはできているが、地域の中での取り組みは十分ではない。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
7	4	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	(自己評価) 自己評価を職員全員でおこない、外部評価の結果も周知しており、改善に向けて取り組んでいる。 (外部評価) 管理者、職員は自己評価を全員で行ない、日々のケアの取り組みや振り返りに役立ったと考えている。また、外部評価の意義を十分に理解し、評価の改善に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
8	5	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 評価についての意見交換を行いサービス向上にいかしている。		
			(外部評価) 2か月に1回開催している。会議での意見を支援の参考にしたたり、地域の行事へのお誘いがあれば参加する等、ホームのサービス向上に活かしている。しかし、会議自体がやや形骸化している感がある。	※	ホーム理解の基本である認知症の学習会を、いつもの参加者以外にも声をかけて開催する、災害時の避難・誘導について消防署や近所の方々の参加を得るとともに検討するといった企画等、運営推進会議をより柔軟に運営することを期待する。
9	6	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	(自己評価) 取り組めていない。	※	市担当者に積極的に関係作りを行う。
			(外部評価) 利用者に必要な手続き等で市担当者を訪ねることはある。しかし、ホームの実状を伝え、課題の検討、サービスの質向上に共に取り組むところまでは至っていない。	※	市担当者にホームの実状を伝え、共にケアの向上に取り組む姿勢が望まれる。また、地域包括支援センターや公民館等との連携を通して、さらにサービスの質向上に取り組むことを期待する。
10		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	(自己評価) 必要性を関係者と協議をしているが、職員全員が学べているとはいえない。	※	制度についての学習会を開く。
11		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 虐待防止関連法の学習会に参加したり、会議の時に話合ったりして虐待防止の徹底を図っている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制					
12		○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約時には十分な説明を行い、退去時にも同様にし、関係者の理解を図っている。		
13		○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 利用者の言葉、態度などから要求、意見、苦情を考察し、カンファレンスなどで話し合っている。		
14	7	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	(自己評価) 利用者の担当職員が定期的に利用者の状態を便りと写真でしらせている。 (外部評価) 利用者の暮らしぶりや健康状態は家族の面会や行事への参加時及び電話で報告している。また、定期的に利用者の担当者から写真入りのお便りを家族に送っている。金銭管理は利用者自身で行なうが、ホームで管理の場合は家族の来訪時に金銭出納帳と領収書を確認してもらっている。		
15	8	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 家族の意見、不満をなるべく聞き出すよう努めている。カンファレンスなどで話し合い、対応できるようにしている。 (外部評価) 家族等の意見は面会時や運営推進会議出席時、ホーム内の意見箱等から把握し、運営に反映させるよう努めている。内部の苦情・相談窓口は文書に明記し説明しているが、外部の公的機関等の窓口は示されていない。	※	家族等の意見・苦情は、職員ばかりでなく外部にも表せる機会を設けることが大切であるため、外部の公的機関等の窓口を明記し、家族に説明していくことを期待する。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
16		○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 折に触れ、意見提案を聞いているが、不満や苦情を全て把握しているとは言いがたい。		
17		○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	(自己評価) 時間帯をずらすなど、柔軟に対応しているが、充分とは言えない。	※	必要な時間帯に、もっと職員が確保できるようにしたい。
18	9	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	(自己評価) 異動や離職がある場合は、ダメージはなるべく少なくなるよう配慮している。 (外部評価) ユニット間の職員異動はあるが、日頃からユニットの職員同士の協力体制があり、馴染みの関係が築き易く、利用者へのダメージは少ない。離職時は申し送りを綿密に行ない、残った職員でカバーし合うようにしている。		
5. 人材の育成と支援					
19	10	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 研修や講演会にはできるだけ多くの職員が参加できるようにしている。 (外部評価) 職員は外部の研修会に随時参加し、他の職員にも研修内容を伝えている。また、ホーム内では月1回、系列事業所の専門職員等を講師に勉強会を開いている。勉強会に参加できなかった職員にも資料を渡し、感想を提出する等で学習が行き渡るようにしている。	※	さらに有意義な研修を受けられるようにする。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
20	11	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	(自己評価) 相互評価への参加や地区のグループホーム研修会に積極的に参加している。 (外部評価) 地域のホームの管理者の話合いが、市担当者も出席して行われている。ホームの職員による相互訪問・業務体験も行なわれ、職員の学びが利用者の支援に活かされている。		
21		○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	(自己評価) フィットネスクラブを低料金で利用できるになっている。茶道、華道などのクラブに参加できる。		
22		○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	(自己評価) 職員の資格取得に向けた支援をしている。人事考課を行い向上心につなげている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
23		○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	(自己評価) 事前面接時には本人の状態把握に努めるようにしている。		
24		○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	(自己評価) 入居時の面接や面会時、家族の心配事、希望などを充分時間をかけて聞いている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
25		○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 本人、家族と話し合い、状態を見極めてサービス利用の紹介、対応をしている。		
26	12	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	(自己評価) なるべく環境変化のストレスを軽減させるよう配慮している。 (外部評価) 入居前の見学の時から管理者や職員が関わり、どのユニットに入居が適当かを話し合っている。また、利用者の生活情報を早めに入手し、ケアの参考にしている。利用者は入居当日の朝ホームに入り、午前中は様子を見て、午後から少しづつホームに慣れるよう支援している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
27	13	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	(自己評価) 利用者と共に、喜び、悲しみ、「介護される人」ではなく一緒に暮らしていく仲間として支え合って行ける関係を作ることに心掛けている。 (外部評価) 職員と利用者とともに調理をしたり、鉢植えの草花や小鳥の世話をしたり、歌を唄ったり、ラジオ体操をしたりして仲良く過ごしている。利用者に昔の話を聞いたり、料理法を教わることもある。		
28		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 面会や連絡の多い家族には、話し合う機会も多く一緒に支えていく関係も築きやすい。	※	面会にこられない家族に対しては、こちらから積極的に情報を提供していく。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
29		○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	(自己評価) 本人の状況を細かに知らせるようにし、家族と良い関係が築けるように支援している。		
30		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 幼馴染の訪問、なじみの店への外出など、関係を継続している。	※	お墓参りなど、行きたい場所への支援をもっと充実させたい。
31		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	(自己評価) 利用者同士の関係性は常に情報共有できるようにし、できるだけ「共に暮らす」暮らしを考慮しながら支援している。		
32		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	(自己評価) 退所してからも、家族の相談にのったり、移転先の他事業所に面会に行ったりしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
33	14	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 本人にとってどうなのか？ということを常に考えながら、会話の中、表情などから、推し量るようにしている。 (外部評価) 普段の会話や表情から、各利用者の好み、楽しみごと、好きな食べ物等を把握し、それらが叶うような支援を心がけている。	※	本院の希望、意向はもっと探って行かなければならないと思われる。「生き甲斐」となるものをどのように築いていくかを常に検討しながらの支援をしたい。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
34		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 本人、家族からの聞き取り等により把握している。生活アセスメントシートに記入していただく。		
35		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	(自己評価) 生活記録表や日々の様子から、ひとりひとりの現状把握につとめている。生活アセスメントシートに記入していただく。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
36	15	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	(自己評価) 家族や本人の意見を聞き、ケース会で話し合いながら、ケアプランを作成している。 (外部評価) 2人の職員が1人の利用者を担当する体制で介護計画を作成し、支援を行っている。介護計画は利用者の思いや面会時の家族の意見等を反映して作成するよう努めている。	※	面会にこられない家族に対しては、こちらから積極的に情報を提供していく。
37	16	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	(自己評価) ケアプランの見なおしは定期的に行っているが、本人の状態変化があったときは、現状に即したケアプランを作成している。 (外部評価) 介護計画は2週間に1回見直している。利用者の状況に変化が生じた場合は、その都度見直すことにしている。	※	緊急の場合は、家族の参加が難しいことがあるので、機会を見て説明し、意見を求めている。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
38		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 個別のケース記録は、介護計画をもとに記録し、「気づき」に重点をおいている。	※	さらに、「気づき」の内容を充実させる。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
39	17	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	(自己評価) 本人、家族の希望で通院介助をしている。ショートステイを受け入れ体制はあるが利用はない。 (外部評価) 利用者や家族の状況に応じた、急な外出・外泊支援や受診時の送迎等の柔軟な支援を行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
40		○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	(自己評価) 火災訓練を行ったり、図書館を利用したり、地域の文化祭に参加している。		
41		○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	(自己評価) 必要に応じて理美容サービスを利用している。		
42		○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	(自己評価) 運営推進会議に包括支援センターの職員が参加しており、いろいろな情報を得られている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
43	18	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	(自己評価) 利用者各自に主治医がおり、受診の時は職員が同行している。 (外部評価) 利用者や家族の希望にそったかかりつけ医の受診を支援している。受診時の同行は家族の場合と職員の場合があるが、医師への具体的な状態報告が必要な時は、職員が付き添うことにしている。		
44		○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	(自己評価) 市内にある認知症専門医に定期的に受診している。		
45		○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	(自己評価) 同じ施設内の事業所（老健、特養）の看護師に支援してもらっている。		
46		○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	(自己評価) 入院した場合は、頻回に面会に行き、常に医療関係者や家族と早期退院にむけて、調整している。		
47	19	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	(自己評価) 重度化や終末期に向けた対応はしていないが、併設の施設の利用を支援している。 (外部評価) ホームの隣りにある病院の協力で、利用者や家族の意向にそった重度化や終末期の対応ができる体制をとっている。ホームには看護師が勤務して見取り介護の手引も作成されているが、実際的な内容がやや不十分な面もある。	※	見取り介護の手引は要点がまとめられ全員で共有しているが、実際的な介護・看護の内容という点では物足りない感じがある。管理者、職員の細部にわたる話し合いで、さらに実践に役立つ具体的なマニュアル作りを期待する。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
48		○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	(自己評価) 左記の取り組みはできていない。		
49		○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	(自己評価) 同一施設内の移動が多く、十分な情報交換ができ、移動後も職員やホーム利用者も訪ねている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
50	20	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	(自己評価) 職員会、ケース会など機会あるごとに言葉かけ、対応についての留意点を注意喚起し、向上していくように努力している。プライバシーの保護もカンファレンスで再三検討している。 (外部評価) 職員は食事を食べない利用者を、さりげなく自力で食べられるよう支援したり、トイレ誘導の確認を耳元で行なう等、一人ひとりの誇りを大事にした対応をしている。		
51		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	(自己評価) 個人の趣味、好みを話し合いながら利用者の決定を尊重しながらの暮らしを大切にしている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
52	21	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 大まかな1日の流れは有るが、個人の状況に合わせて柔軟に対応している。 (外部評価) 入浴時間や外出、買い物の希望等は、その日の利用者の都合や思いを尊重して支援している。また、趣味のパッチワーク、ピアノ、茶道等を皆で楽しめるよう環境を整えている。	※	さらに、希望に添えるように努力したい。
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
53		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	(自己評価) 朝の更衣時に自分の好みで整えている。外出の時などは、おしゃれを楽しむよう取り組んでいる。行き付けの美容院や、化粧品店などに行っている。		
54	22	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 各々の好みの食事を作るようにしている。調理、盛り付け、片付けも、利用者と一緒に、同じ食卓に向かいながら、楽しく食事できるような雰囲気作りにも取り組んでいる。 (外部評価) 朝食と夕食は系列事業所と同じ食事が配食され、昼食は各ユニットで利用者と職員が作っている。職員は利用者と同じ食事を食べながら介助し、ともに会話や食べることを楽しんでいる。食事の後片付けも利用者とともにしている。	※	昼食だけではあるが、回数を増やす事を検討している(現在18回/月)
55		○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	(自己評価) 本人の体調をみながら、それぞれの希望を支援している。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
56		○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	(自己評価) 排泄記録表を作成して、一人一人の状態を把握し、失敗のないようにさりげなくトイレ誘導をしている。		
57	23	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	(自己評価) 夜間浴はできていないが、他は各々の希望に添うようにしている。 (外部評価) 利用者の希望する時間に入浴できるよう支援したり、ひとりで入浴を希望する場合はそれぞれの状況で判断し、支援している。		
58		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	(自己評価) 日中に活動性を上げるようにし、夕方からは、就寝に向けて穏やかに過ごせるように支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
59	24	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	(自己評価) 利用者の趣味や経験などを活かしてもらえような行事、役割などを作り支援している。 (外部評価) 茶道、パッチワーク、ピアノ演奏、歌、体操、調理、食事の片付け、鉢植え植物への水やり等の楽しみや役割を、一人ひとりの力に応じて支援している。	※	生活の質を上げる為に常に利用者と一緒に探求していきたい。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
60		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 利用者の希望、力量に応じてお金を所持して使っている。利用者によっては、出納帳をつけ面会時に家族に確認していただく。		
61	25	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	(自己評価) 天気の良い日は散歩、買物に出かけている。個人の希望の店に行けるように支援している。 (外部評価) 近くの神社や散歩道、スーパーや専門店での買い物等、利用者の希望にそった外出支援をしている。系列事業所の車で少し離れた所へも出かけている。	※	さらに、いつでも、どこにでも外出支援ができるようにしたい。
62		○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	(自己評価) 希望が叶うように努力はしているが、限られた場所になりやすい。	※	遠方の外出を支援していきたい。
63		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 本人の希望に添うように支援している。	※	絵の得意な利用者に指導してもらい絵手紙を書いてみる。携帯電話など利用している。
64		○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	(自己評価) 面会にこられた方がゆっくりと過ごせるよう茶湯をサービスしている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(4) 安心と安全を支える支援					
65		○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 身体拘束は決してしてはならないという意識を徹底している。	※	さらに、学習会などで意識強化を図りたい。
66	26	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	(自己評価) 事業所が4階にあるため、各ユニットの玄関の施錠はしていないが、外からの進入口には電子ロックがある。 (外部評価) 管理者や職員は鍵をかけない生活の意義を理解していて、居室や日中の玄関に鍵はかかっているが、安全面に配慮してホームがある4階のエレベーター出入口には電子ロックがある。	※	電子ロックを解除していく方向で検討したい。
67		○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	(自己評価) 職員は記録などリビングで見守りながら取るようにしている。夜間は1時間毎に巡回している。		
68		○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	(自己評価) 利用者の状態に応じた対応をしている。		
69		○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	(自己評価) ヒヤリハット、事故報告などを作成し、常に事故防止に心がけている。定期的に消防訓練を行っている。		


自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
70		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	(自己評価) 全ての職員が救命救急の研修を受け、緊急時の対応マニュアルも周知徹底をはかっている。		
71	27	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	(自己評価) 消防署の協力で避難訓練や消火器の使い方などの訓練は おこなっている。	※	地域の人々との協力体制が取れるように検討する。
			(外部評価) 消防署の協力を得て、系列事業所とともに避難訓練、消火器具の使い方等の訓練を年に2回、夜間想定でも行っている。ホーム近くの避難場所が不明確であり、地域の人々の協力も十分とは言えない、	※	利用者の避難誘導にあたり、地域やホーム近くの避難場所を確認し、職員に周知することが望まれる。また、災害時に地域の人々の協力が十分得られるよう、機会をとらえての働きかけを期待する。
72		○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている	(自己評価) 機会ある毎に左記のように説明している。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
73		○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	(自己評価) バイタルチェックは毎日行っているが、常に状態観察をおこたらず、変化があれば、管理者に報告し対応している。		
74		○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 服薬ファイルをケース毎に整理して、職員が解り易いようにしている。新たな薬の服薬時には、特に状態変化に気をつけている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
75		○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	(自己評価) 排泄記録表を作成し、排泄状態を把握しながら、食事の内容の検討、水分補給を心掛け、身体を動かすような支援をしている。		
76		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	(自己評価) 毎食後の口腔ケアを支援している。	※	義歯の状態チェックを定期的に行う。
77	28	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 食事の摂取量を記録し、情報を共有している。同施設の管理栄養士にアドバイスをもらっている。 (外部評価) 食事や水分の摂取量は都度チェックしている。栄養バランスやカロリーは系列事業所の栄養士が管理している。		
78		○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	(自己評価) 感染予防委員会があり、マニュアルを作成し、実行している。		
79		○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	(自己評価) 調理器具などは、毎回熱湯消毒し、衛生管理に努めている。食品は出来るだけ毎日買物に出かけ新鮮な物を購入している。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
80		○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	(自己評価) ビルの4階にあるため近隣の人にとっては入りにくい。		
81	29	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) リビング、廊下、和室など季節を取り入れたしつらえを工夫している。 (外部評価) 玄関や居間は鉢植えの植物・草花が多く配置され、利用者の作品を飾り、畳の間もあって、落ち着いて過ごせる雰囲気がある。浴室やトイレも不快な匂い等なく、清潔である。		
82		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) 和室を利用している。		
83	30	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 馴染みの家具や、家族の写真などを置いている。 (外部評価) 居室の入口及び窓には障子が入り、室内には利用者の使い慣れた鏡台、時計、楽器、お気に入りのぬいぐるみ等が持ち込まれ、居心地よく過ごせる部屋である。多くの居室にはトイレや洗面台を設置している。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
84		○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	(自己評価) 毎朝、掃除の時には窓を開け換気を行っている。エアコンの温度はこまめに調整している。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり					
85		○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 段差がなく、廊下、浴室、トイレ内には手すりが付いている。介護用ベッドも利用している。	※	歩行が不安定な利用者の居室内に手すりが必要である。
86		○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	(自己評価) 何が障害となっているかを見極めて、できる力を維持するような環境を整えている。		
87		○建物の外周リや空間の活用 建物の外周リやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	(自己評価) 花を植え、水遣りをしたり、小鳥の世話をしたりと楽しんで活動できている。	※	野菜の種類を多く植えて、収穫を楽しみたい。

(注)

- 1  部分は自己評価と外部評価の共通評価項目。
- 2 全ての自己評価又は外部評価の項目に関し、具体的に記入すること。

V. サービスの成果に関する項目			
項 目	取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	判断した具体的根拠	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	1 ほぼ全ての利用者の (自己 ② 利用者の2/3くらいの 評価) 3 利用者の1/3くらいの 4 ほとんど掴んでいない	
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	① 毎日ある (自己 2 数日に1回程度ある 評価) 3 たまにある 4 ほとんどない	
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	1 ほぼ全ての利用者が (自己 ② 利用者の2/3くらいが 評価) 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	① ほぼ全ての利用者が (自己 2 利用者の2/3くらいが 評価) 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	1 ほぼ全ての利用者が (自己 2 利用者の2/3くらいが 評価) ③ 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	① ほぼ全ての利用者が (自己 2 利用者の2/3くらいが 評価) 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	① ほぼ全ての利用者が (自己 2 利用者の2/3くらいが 評価) 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	1 ほぼ全ての家族と (自己 ② 家族の2/3くらいと 評価) 3 家族の1/3くらいと 4 ほとんどできていない	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	1 ほぼ毎日のように (自己 2 数日に1回程度 評価) ③ たまに 4 ほとんどない	

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	判断した具体的根拠
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	1 大いに増えている (自己 ② 少しずつ増えている 評価) 3 あまり増えていない 4 全くいない	
98	職員は、生き活きと働けている	1 ほぼ全ての職員が (自己 ② 職員の2/3くらいが 評価) 3 職員の1/3くらいが 4 ほとんどいない	
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1 ほぼ全ての利用者が (自己 2 利用者の2/3くらいが 評価) ③ 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1 ほぼ全ての家族等が (自己 2 家族等の2/3くらいが 評価) ③ 家族等の1/3くらいが 4 ほとんどできていない	

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

(自己評価)

日常生活役割を遂行しつつ、個々の趣味活動の実現を通して、社会とつながるような支援をしている。(短歌、俳句を投稿する、絵画を地域の文化祭に出展する、手提げ袋を作成し、ボランティアの方にプレゼントする、図書館の利用など)

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

I. 理念に基づく運営

1. 理念の共有
2. 地域との支えあい
3. 理念を実践するための制度の理解と活用
4. 理念を実践するための体制
5. 人材の育成と支援

II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援

III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

1. 一人ひとりの把握
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し
3. 多機能性を活かした柔軟な支援
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

1. その人らしい暮らしの支援
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり

V. サービスの成果に関する項目

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー
 “愛媛県地域密着型サービス評価”

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議の上記入すること。
 - 各自己評価項目について、「取組みの事実」を記入し、取組みたいに※を付け、適宜その内容を記入すること。
 - 「取組みの事実」は必ず記入すること。
- (注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含む。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含む。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含む。

事業所名 グループホームおてだま

(ユニット名) かざぐるま

記入者(管理者)
氏名 田坂愛子

評価完了日 平成 19 年 3 月 30 日

(別表第1)

自己評価及び外部評価票

【セル内での改行は「Alt+Enter」です。】

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	(自己評価) 独自の理念はあるが、地域の中でのサービスをうったったものではない。 (外部評価) 職員全員で話し合っつった理念であり、分かりやすく、利用者が地域の中で暮らしていくことを支える理念である。	※	理念の見直しを検討している。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	(自己評価) 毎日、申し送りで理念を確認しあっている。カンファレンスなど常に理念を意識した話し合いをしてケアプランに生かしている。 (外部評価) 管理者と職員は、申し送り時に理念の確認をするとともに、毎日のケアの振り返り時に、理念を意識するように努めている。		
3		○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	(自己評価) 家族への説明は折に触れ行っているが、地域への取り組みはわずかししか出来ていない。	※	いろいろな形で地域とかかわり、理念を伝えていきたい。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. 地域との支えあい					
4		○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	(自己評価) 散歩や買物では、挨拶や話をしたりできているが、事業所がビルの4階にあるため入りにくさは否めない。		
5	3	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	(自己評価) 自治会の文化祭、児童センターの子供達との交流などに取り組んでいる。 (外部評価) 地方祭に参加したり、地域の文化祭に利用者の作品を出品したり、近くの児童センターとの交流を図ったりしている。地域の婦人会から手作りのお菓子や作品が届くこともある。	※	児童センターの子供達との繋がり、地域の伝統行事への参加などさらに交流の機会を増やしていきたい。
6		○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	(自己評価) 実習生の受け入れは出来ているが、地域の中での取り組みは充分ではない。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
7	4	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	(自己評価) 自己評価を職員全員で行い、外部評価の結果も周知しており、改善に向けて取り組んでいる。 (外部評価) 管理者、職員は自己評価を全員で行ない、日々のケアの取り組みや振り返りに役立ったと考えている。また、外部評価の意義を十分に理解し、評価の改善に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)	
8	5	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 評価についての意見交換を行いサービス向上に活かしている。			
			(外部評価) 2か月に1回開催している。会議での意見を支援の参考にしたたり、地域の行事へのお誘いがあれば参加する等、ホームのサービス向上に活かしている。しかし、会議自体がやや形骸化している感がある。	※	ホーム理解の基本である認知症の学習会を、いつもの参加者以外にも声をかけて開催する、災害時の避難・誘導について消防署や近所の方々の参加を得るとともに検討するといった企画等、運営推進会議をより柔軟に運営することを期待する。	
9	6	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	(自己評価) 取り組めていない。		※	市担当者に積極的に関係作りを行う。
			(外部評価) 利用者に必要な手続き等で市担当者を訪ねることはある。しかし、ホームの実状を伝え、課題の検討、サービスの質向上に共に取り組むところまでは至っていない。	※	市担当者にホームの実状を伝え、共にケアの向上に取り組む姿勢が望まれる。また、地域包括支援センターや公民館等との連携を通して、さらにサービスの質向上に取り組むことを期待する。	
10		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	(自己評価) 必要性を関係者と協議をしているが、職員全員が学べているとはいえない。	※	制度についての学習会を開く。	
11		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 虐待防止関連法の学習会に参加したり、会議の時に話合ったりして虐待防止の徹底を図っている。			

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制					
12		○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約時には十分な説明を行い、退去時にも同様にし、関係者の理解を図っている。		
13		○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 利用者の言葉、態度などから要求、意見、苦情を考察し、カンファレンスなどで話し合っている。		
14	7	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	(自己評価) 利用者の担当職員が、定期的に利用者の状態を便りと写真でしらせている。 (外部評価) 利用者の暮らしぶりや健康状態は家族の面会や行事への参加時及び電話で報告している。また、定期的に利用者の担当者から写真入りのお便りを家族に送っている。金銭管理は利用者自身で行なうが、ホームで管理の場合は家族の来訪時に金銭出納帳と領収書を確認してもらっている。		
15	8	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 家族の意見、不満をなるべく聞き出すよう努めている。カンファレンスなどで、話し合い対応できるようにしている。 (外部評価) 家族等の意見は面会時や運営推進会議出席時、ホーム内の意見箱等から把握し、運営に反映させるよう努めている。内部の苦情・相談窓口は文書に明記し説明しているが、外部の公的機関等の窓口は示されていない。	※	家族等の意見・苦情は、職員ばかりでなく外部にも表せる機会を設けることが大切であるため、外部の公的機関等の窓口を明記し、家族に説明していくことを期待する。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
16		○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 折に触れ意見提案を聞いてはいるが、不満や苦情を全て把握しているとは言いがたい。		
17		○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	(自己評価) 時間帯をずらすなど、柔軟に対応しているが、充分とは言えない。	※	必要な時間帯に、もっと職員が確保できるよう努力したい。
18	9	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	(自己評価) 異動や離職がある場合は、ダメージはなるべく少なくなるよう配慮している。 (外部評価) ユニット間の職員異動はあるが、日頃からユニットの職員同士の協力体制があり、馴染みの関係が築き易く、利用者へのダメージは少ない。離職時は申し送りを綿密に行ない、残った職員でカバーし合うようにしている。		
5. 人材の育成と支援					
19	10	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 研修や講演会にはできるだけ多くの職員が参加できるようにしている。 (外部評価) 職員は外部の研修会に随時参加し、他の職員にも研修内容を伝えている。また、ホーム内では月1回、系列事業所の専門職員等を講師に勉強会を開いている。勉強会に参加できなかった職員にも資料を渡し、感想を提出する等で学習が行き渡るようにしている。	※	さらに有意義な研修を受けられるようにする。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
20	11	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	(自己評価) 相互評価への参加や地区のグループホーム研修会に積極的に参加している。		
			(外部評価) 地域のホームの管理者の話合いが、市担当者も出席して行われている。ホームの職員による相互訪問・業務体験も行なわれ、職員の学びが利用者の支援に活かされている。		
21		○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	(自己評価) フィットネスクラブを低料金で利用できるになっている。茶道、華道などのクラブに参加できる。		
22		○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	(自己評価) 職員の資格取得に向けた支援をしている。人事考課を行い向上心につなげている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
23		○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	(自己評価) 事前面接時には本人の状態把握に努めるようにしている。		
24		○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	(自己評価) 入居時の面接や面会時に、家族の心配事、希望などを充分時間をかけて聞いている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
25		○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 本人、家族と話し合い、状況を見極めてサービス利用の紹介対応をしている。		
26	12	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	(自己評価) なるべく環境変化のストレスを軽減させるよう配慮している。 (外部評価) 入居前の見学の時から管理者や職員が関わり、どのユニットに入居が適切かを話し合っている。また、利用者の生活情報を早めに入手し、ケアの参考にしている。利用者は入居当日の朝ホームに入り、午前中は様子を見て、午後から少しづつホームに慣れるよう支援している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
27	13	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	(自己評価) 利用者と共に、喜び、悲しみ、「介護される人」ではなく一緒に暮らしていく仲間として支え合っていける関係を作ることを心掛けている。 (外部評価) 職員と利用者とともに調理をしたり、鉢植えの草花や小鳥の世話をしたり、歌を唄ったり、ラジオ体操をしたりして仲良く過ごしている。利用者に昔の話を聞いたり、料理法を教わることもある。		
28		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 面会や連絡の多い家族には、話し合う機会も多く一緒に支えていく関係も築きやすい。	※	面会にこられない家族に対しては、こちらから積極的に情報提供をしていく。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
29		○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	(自己評価) 本人の状況を細かに知らせるようにし、家族と良い関係が築けるよう支援している。		
30		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 幼馴染の訪問、なじみの店への外出など、関係を継続している。	※	お墓参りなど、行きたい場所への支援をもっと充実させたい。
31		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	(自己評価) 利用者同士の関係性は常に情報共有できるようにし、できるだけ「共に暮らす」暮らしを考慮しながら、支援している。	※	お互いに協力し合う、助け合う場面を多く作る。
32		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	(自己評価) 退所してからも、家族の相談にのったり、移転先の他事業所に面会に行ったりしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
33	14	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 本人にとってどうなのか？と言う事を常に考えながら、会話の中、表情などから推し量るようにしている。 (外部評価) 普段の会話や表情から、各利用者の好み、楽しみごと、好きな食べ物等を把握し、それらが叶うような支援を心がけている。	※	本人の希望、意向はもっと探っていかなければならないと思われる。「生き甲斐」となるものをどのように築いていくかを常に検討しながらの支援をしたい。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
34		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 本人、家族からの聞き取り等により把握している。		
35		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	(自己評価) 生活記録表や日々の様子から、ひとりひとりの現状把握につとめている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
36	15	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	(自己評価) 家族や本人の意見を聞き、ケース会で話し合いながら、ケアプランを作成している。 (外部評価) 2人の職員が1人の利用者を担当する体制で介護計画を作成し、支援を行っている。介護計画は利用者の思いや面会時の家族の意見等を反映して作成するよう努めている。	※	面会の少ない家族との話し合いの機会を増やしたい。
37	16	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	(自己評価) ケアプランの見直しは定期的に行っているが、本人の状態変化があったときは、現状に即したケアプランを作成している。 (外部評価) 介護計画は2週間に1回見直している。利用者の状況に変化が生じた場合は、その都度見直すことにしている。	※	緊急の場合は、家族の参加が難しいことがあるので、変更後の説明を行って、意見を求めていく。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
38		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 個別のケース記録は、介護計画をもとに記録し、「気づき」に重点をおいている。	※	さらに「気づき」の内容を充実させる。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
39	17	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	(自己評価) 本人、家族の希望で通院介助をしている。ショートステイ受け入れがあるが、利用はされていない。 (外部評価) 利用者や家族の状況に応じた、急な外出・外泊支援や受診時の送迎等の柔軟な支援を行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
40		○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	(自己評価) 火災訓練を行ったり、図書館を利用したり、地域の文化祭に参加している。		
41		○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	(自己評価) 理美容サービスを利用している。		
42		○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	(自己評価) 運営推進会議に包括支援センターの職員が参加しており、いろいろな情報を得られている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
43	18	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	(自己評価) 利用者各自に主治医がおり、受診の時は職員が同行している。 (外部評価) 利用者や家族の希望にそったかかりつけ医の受診を支援している。受診時の同行は家族の場合と職員の場合があるが、医師への具体的な状態報告が必要な時は、職員が付き添うことにしている。		
44		○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	(自己評価) 市内にある病院の認知症専門医に定期的に受診している。		
45		○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	(自己評価) 同じ施設内の事業所（老健、特養）の看護師に支援してもらっている。		
46		○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	(自己評価) 入院した場合は頻回に面会に行き、常に医療関係者や家族とも早期退院に向けて、調整している。		
47	19	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	(自己評価) 重度化や終末期に向けた対応はしていないが、併設の施設の利用を支援している。 (外部評価) ホームの隣りにある病院の協力で、利用者や家族の意向にそった重度化や終末期の対応ができる体制をとっている。ホームには看護師が勤務して看取り介護の手引も作成されているが、実際的な内容がやや不十分な面もある。	※	看取り介護の手引は要点がまとめられ全員で共有しているが、実際的な介護・看護の内容という点では物足りない感じがある。管理者、職員の細部にわたる話し合いで、さらに実践に役立つ具体的なマニュアル作りを期待する。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
48		○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	(自己評価) 左記の取り組みはできていない。		
49		○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	(自己評価) 同一施設内の移動が多く、十分な情報交換ができ、移動後も職員やホーム利用者も訪ねている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
50	20	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報取り扱いをしていない	(自己評価) 職員会、ケース会など機会ある毎に言葉掛け、対応についての留意点を注意喚起し、向上していくように努力している。プライバシーの保護もカンファレンスで再三検討している。 (外部評価) 職員は食事を食べない利用者を、さりげなく自力で食べられるよう支援したり、トイレ誘導の確認を耳元で行なう等、一人ひとりの誇りを大事にした対応をしている。		
51		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	(自己評価) 個人の趣味、好みを話し合いながら利用者の決定を尊重しながらの暮らしを大切にしている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
52	21	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 大まかな1日の流れは有るが、個人の状況に合わせて柔軟に対応している。 (外部評価) 入浴時間や外出、買い物の希望等は、その日の利用者の都合や思いを尊重して支援している。また、趣味のパッチワーク、ピアノ、茶道等を皆で楽しめるよう環境を整えている。	※	さらに、希望に添えるように努力したい。
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
53		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	(自己評価) 朝の更衣時に本人の好みで整えている。外出の時などは、おしゃれを楽しむよう取り組んでいる。行き付けの美容院に行っている。		
54	22	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 各々の好みの食事を作る様にしている。調理、盛り付け、片付けも、利用者と一緒に、同じ食卓に向かいながら、楽しく食事できるような雰囲気作りにも取り組んでいる。 (外部評価) 朝食と夕食は系列事業所と同じ食事が配食され、昼食は各ユニットで利用者と職員が作っている。職員は利用者と同じ食事を食べながら介助し、ともに会話や食べることを楽しんでいる。食事の後片付けも利用者とともにしている。	※	昼食だけではあるが、回数を増やす事を検討している(現在18回/月)
55		○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	(自己評価) 本人の状況を細かに知らせるようにし、家族と良い関係が築けるよう支援している。体調をみながら、それぞれの希望を支援している。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
56		○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	(自己評価) 排泄記録表を作成して、一人一人の状態を把握し、失敗のないようにさりげなくトイレ誘導をしている。		
57	23	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	(自己評価) 夜間浴は出来てないが、他は利用者各々の希望に添うようにしている。 (外部評価) 利用者の希望する時間に入浴できるよう支援したり、ひとりで入浴を希望する場合はそれぞれの状況で判断し、支援している。		
58		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々々の状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	(自己評価) 日中に活動性を上げるようにし、夕方からは、就寝に向けて穏やかに過ごせるように支援している。表情や態度をみながら、休息をうながしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
59	24	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	(自己評価) 利用者の趣味や経験などを生かしてもらえような行事、役割などを作り支援している。 (外部評価) 茶道、パッチワーク、ピアノ演奏、歌、体操、調理、食事の片付け、鉢植え植物への水やり等の楽しみや役割を、一人ひとりの力に応じて支援している。	※	生活の質を上げる為に常に利用者と一緒に探求していきたい。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
60		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 利用者の希望、力量に応じてお金を所持して使っている。		
61	25	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	(自己評価) 天気の良い日は散歩、買物に出かけている。個人の希望の店に行けるように支援している。 (外部評価) 近くの神社や散歩道、スーパーや専門店での買い物等、利用者の希望にそった外出支援をしている。系列事業所の車で少し離れた所へも出かけている。	※	さらに、いつでも、どこにでも外出支援ができるようにしたい。
62		○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	(自己評価) 希望が叶うように努力はしているが、限られた場所になりやすい。	※	遠方の外出を支援していきたい。
63		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 本人の希望に添うように支援している。		
64		○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	(自己評価) 面会にこられた方がゆっくりと過ごせるよう茶湯をサービスしている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(4) 安心と安全を支える支援					
65		○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 身体拘束は決してしてはならないという意識を徹底している。	※	さらに、学習会などで意識強化を図りたい。
66	26	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	(自己評価) 事業所がビルの4階にあるため、各ユニットの玄関の施錠はしていないが、外からの進入口には電子ロックがある。 (外部評価) 管理者や職員は鍵をかけない生活の意義を理解していて、居室や日中の玄関に鍵はかかっているが、安全面に配慮してホームがある4階のエレベーター出入口には電子ロックがある。	※	電子ロックを解除していく方向で検討したい。
67		○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	(自己評価) 職員は、記録などはリビングで見守りながら取る様になっている。夜間は1時間毎に巡回している。		
68		○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	(自己評価) 利用者の状態に応じた対応をしている。		
69		○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	(自己評価) ヒヤリハット、自己報告などを作成し、常に事故防止に心がけている。定期的に消防訓練を行っている。		


自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
70		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	(自己評価) 全ての職員が救命救急の研修をうけ、緊急時の対応マニュアルも周知徹底を図っている。		
71	27	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	(自己評価) 消防署の協力で、避難訓練や消火器の使い方などの訓練は行っている。	※	地域の人々との協力体制が取れるように検討する。
			(外部評価) 消防署の協力を得て、系列事業所とともに避難訓練、消火器具の使い方等の訓練を年に2回、夜間想定でも行っている。ホーム近くの避難場所が不明確であり、地域の人々の協力も十分とは言えない、	※	利用者の避難誘導にあたり、地域やホーム近くの避難場所を確認し、職員に周知することが望まれる。また、災害時に地域の人々の協力が十分得られるよう、機会をとらえての働きかけを期待する。
72		○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている	(自己評価) 機会ある毎に左記のように説明している。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
73		○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	(自己評価) バイタルチェックは毎日行っているが、常に状態観察を怠らず、変化があれば、管理者に報告し対応している。		
74		○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 服薬ファイルをケース毎に整理して、職員が解りやすいようにしている。新たな薬の服薬時には、特に状態変化に気をつけている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
75		○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かさず働きかけ等に取り組んでいる	(自己評価) 排泄記録表を作成し、排泄状態を把握しながら、食事内容の検討、水分補給を心掛け、身体を動かすような支援をしている。		
76		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	(自己評価) 毎食後の口腔ケアを支援している。	※	義歯の状態チェックを定期的に行う。
77	28	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 食事の摂取量を記録し、情報を共有している。同施設の管理栄養士にアドバイスをもらっている。 (外部評価) 食事や水分の摂取量は都度チェックしている。栄養バランスやカロリーは系列事業所の栄養士が管理している。	※	体調不良時には細かな水分量の記録を取る。
78		○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	(自己評価) 感染予防委員会があり、マニュアルを作成し、実行している。		
79		○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	(自己評価) 調理器具などは、毎回熱湯消毒し、衛生管理に努めている。食品は出来るだけ毎回買物に出かけ、新鮮なものを購入している。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
80		○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	(自己評価) ビルの4階にあるため近隣の人にとっては入りにくい。		
81	29	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) リビング、廊下、和室など季節感を取り入れたしつらえを工夫している。 (外部評価) 玄関や居間は鉢植えの植物・草花が多く配置され、利用者の作品を飾り、畳の間もあって、落ち着いて過ごせる雰囲気がある。浴室やトイレも不快な匂い等なく、清潔である。		
82		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) 和室を利用している。掘りごたつを設置している。		
83	30	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 馴染みの家具や、家族の写真などを置いている。 (外部評価) 居室の入口及び窓には障子が入り、室内には利用者の使い慣れた鏡台、時計、楽器、お気に入りのぬいぐるみ等が持ち込まれ、居心地よく過ごせる部屋である。多くの居室にはトイレや洗面台を設置している。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
84		○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	(自己評価) 毎朝、掃除の時には窓を開け換気を行っている。エアコンの温度はこまめに調節している。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり					
85		○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 段差がなく、廊下、浴室、トイレ内には手すりが付いている。介護用ベッドも利用している。	※	歩行が不安定な利用者の居室内に手すりが必要である。
86		○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	(自己評価) 何が障害となっているかを見極めて、できる力を維持するような環境を整えている。		
87		○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	(自己評価) 花を植え、水遣りをしたり、小鳥の世話をしたりと楽しんで活動できている。野菜を育て、収穫して調理することに意欲的に取り組んでいる。		

(注)

- 1  部分は自己評価と外部評価の共通評価項目。
- 2 全ての自己評価又は外部評価の項目に関し、具体的に記入すること。

V. サービスの成果に関する項目			
項目	取り組みの成果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	判断した具体的根拠	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	1 ほぼ全ての利用者の (自己 ② 利用者の2/3くらいの 評価) 3 利用者の1/3くらいの 4 ほとんど掴んでいない	
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	(自己 ① 毎日ある 評価) 2 数日に1回程度ある 3 たまにある 4 ほとんどない	
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	(自己 1 ほぼ全ての利用者が 評価) ② 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	(自己 ① ほぼ全ての利用者が 評価) 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	(自己 1 ほぼ全ての利用者が 評価) 2 利用者の2/3くらいが ③ 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	(自己 ① ほぼ全ての利用者が 評価) 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	(自己 ① ほぼ全ての利用者が 評価) 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	(自己 1 ほぼ全ての家族と 評価) ② 家族の2/3くらいと 3 家族の1/3くらいと 4 ほとんどできていない	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	(自己 1 ほぼ毎日のように 評価) 2 数日に1回程度 ③ たまに 4 ほとんどない	

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	判断した具体的根拠
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	1 大いに増えている (自己 ② 少しずつ増えている 評価) 3 あまり増えていない 4 全くいない	
98	職員は、生き活きと働けている	1 ほぼ全ての職員が (自己 ② 職員の2/3くらいが 評価) 3 職員の1/3くらいが 4 ほとんどいない	
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1 ほぼ全ての利用者が (自己 2 利用者の2/3くらいが 評価) ③ 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1 ほぼ全ての家族等が (自己 2 家族等の2/3くらいが 評価) ③ 家族等の1/3くらいが 4 ほとんどできていない	

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

(自己評価)

出来る限り「自分のことは自分で」出来るように支援していく。生活役割の中で、生き甲斐を持ってもらえるようなことを捜していく。(ベランダに多くの野菜を育て収穫した物を料理する。掃除道具を検討し、馴染みのものを使用する。)

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

I. 理念に基づく運営

1. 理念の共有
2. 地域との支えあい
3. 理念を実践するための制度の理解と活用
4. 理念を実践するための体制
5. 人材の育成と支援

II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援

III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

1. 一人ひとりの把握
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し
3. 多機能性を活かした柔軟な支援
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

1. その人らしい暮らしの支援
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり

V. サービスの成果に関する項目

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取り組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー
“愛媛県地域密着型サービス評価”

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議の上記入すること。
- 各自己評価項目について、「取り組みの事実」を記入し、取組みたいに※を付け、適宜その内容を記入すること。

- 「取り組みの事実」は必ず記入すること。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含む。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含む。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含む。

事業所名 グループホームおてだま

(ユニット名) 竹とんぼ

記入者(管理者)
氏名 田坂 愛子

評価完了日 平成 19 年 3 月 30 日

(別表第1)

自己評価及び外部評価票

【セル内での改行は「Alt+Enter」です。】

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	(自己評価) 独自の理念はあるが、地域の中でのサービスをうったたものではない。 (外部評価) 職員全員で話し合っつてつくった理念であり、分かりやすく、利用者が地域の中で暮らしていくことを支える理念である。	※	理念の見直しを検討している。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	(自己評価) 毎日申し送りで理念を確認しあっている。カンファレンスなど常に理念を意識した話し合いをしてケアプランに生かしている。 (外部評価) 管理者と職員は、申し送り時に理念の確認をするとともに、毎日のケアの振り返り時に、理念を意識するように努めている。		
3		○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	(自己評価) 家族への説明は折に触れ行っているが、地域への取り組みはわずかししか出来ていない。	※	いろいろな形で地域とかかわり、理念を伝えていきたい。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. 地域との支えあい					
4		○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	(自己評価) 散歩や買物では、挨拶や話しをしたりできているが、事業所がビルの4階にあるため入りにくさは否めない。		
5	3	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	(自己評価) 自治会の文化祭、児童センターの子供達との交流などに取り組んでいる。 (外部評価) 地方祭に参加したり、地域の文化祭に利用者の作品を出品したり、近くの児童センターとの交流を図ったりしている。地域の婦人会から手作りのお菓子や作品が届くこともある。	※	児童センターの子供達とのつながり、地域の伝統行事への参加などさらに交流の機会を増やしていきたい。
6		○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	(自己評価) 実習生の受け入れはできているが、地域の中での取り組みは充分ではない。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
7	4	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	(自己評価) 自己評価を職員全員で行い、外部評価の結果も周知しており、改善に向けて取り組んでいる。 (外部評価) 管理者、職員は自己評価を全員で行ない、日々のケアの取り組みや振り返りに役立ったと考えている。また、外部評価の意義を十分に理解し、評価の改善に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
8	5	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの 実際、評価への取り組み状況等について報 告や話し合いを行い、そこでの意見をサー ビス向上に活かしている	(自己評価) 評価についての意見交換を行いサービス向上に活かして いる。		
			(外部評価) 2か月に1回開催している。会議での意見を支援の参考 にしたり、地域の行事へのお誘いがあれば参加する等、 ホームのサービス向上に活かしている。しかし、会議自 体がやや形骸化している感がある。	※	ホーム理解の基本である認知症の学習会を、いつ もの参加者以外にも声をかけて開催する、災害時 の避難・誘導について消防署や近所の方々の参加 を得るとともに検討するといった企画等、運営推進 会議をより柔軟に運営することを期待する。
9	6	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議 以外にも行き来する機会をつくり、市町村 とともにサービスの質の向上に取り組んで いる	(自己評価) 取り組めていない。	※	市担当者に積極的に関係作りを行う。
			(外部評価) 利用者に必要な手続き等で市担当者を訪ねることはあ る。しかし、ホームの実状を伝え、課題の検討、サー ビスの質向上に共に取り組むところまでは至っていない。	※	市担当者にホームの実状を伝え、共にケアの向上 に取り組む姿勢が望まれる。また、地域包括支援 センターや公民館等との連携を通して、さらに サービスの質向上に取り組むことを期待する。
10		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成 年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々 の必要性を関係者と話し合い、必要な人 にはそれらを活用できるよう支援している	(自己評価) 必要性を関係者と協議をしているが、職員全員が学べて いるとはいえない。	※	制度についての学習会を開く。
11		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法 について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や 事業所内で虐待が見過ごされることがない よう注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 虐待防止関連法の学習会に参加したり、会議の時に話し 合ったりして虐待防止の徹底を図っている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制					
12		○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約時には十分な説明を行い、退去時にも同様にし、関係者の理解を図っている。		
13		○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 利用者の言葉、態度などから要求、意見、苦情を考察し、カンファレンスなどで話し合っている。		
14	7	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	(自己評価) 利用者の担当職員が定期的に利用者の状態を便りと写真で知らせている。 (外部評価) 利用者の暮らしぶりや健康状態は家族の面会や行事への参加時及び電話で報告している。また、定期的に利用者の担当者から写真入りのお便りを家族に送っている。金銭管理は利用者自身で行なうが、ホームで管理の場合は家族の来訪時に金銭出納帳と領収書を確認してもらっている。		
15	8	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 家族の意見、不満をなるべく聞き出すよう努めている。カンファレンスなどで話し合い対応できるようにしている。 (外部評価) 家族等の意見は面会時や運営推進会議出席時、ホーム内の意見箱等から把握し、運営に反映させるよう努めている。内部の苦情・相談窓口は文書に明記し説明しているが、外部の公的機関等の窓口は示されていない。	※	家族等の意見・苦情は、職員ばかりでなく外部にも表せる機会を設けることが大切であるため、外部の公的機関等の窓口を明記し、家族に説明していくことを期待する。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
16		○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 折に触れ、意見提案を聞いてはいるが、不満や苦情を全て把握しているとは言いがたい。		
17		○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	(自己評価) 時間帯をずらすなど、柔軟に対応しているが、充分とは言えない。	※	必要な時間帯に、もっと職員が確保できるように努力したい。
18	9	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	(自己評価) 異動や離職がある場合は、ダメージはなるべく少なくなるよう配慮している。 (外部評価) ユニット間の職員異動はあるが、日頃からユニットの職員同士の協力体制があり、馴染みの関係が築き易く、利用者へのダメージは少ない。離職時は申し送りを綿密に行ない、残った職員でカバーし合うようにしている。		
5. 人材の育成と支援					
19	10	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 研修や講演会にはできるだけ多くの職員が参加できるようにしている。 (外部評価) 職員は外部の研修会に随時参加し、他の職員にも研修内容を伝えている。また、ホーム内では月1回、系列事業所の専門職員等を講師に勉強会を開いている。勉強会に参加できなかった職員にも資料を渡し、感想を提出する等で学習が行き渡るようにしている。	※	さらに有意義な研修を受けられるようにする。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
20	11	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	(自己評価) 相互評価への参加や地区のグループホーム研修会に積極的に参加している。 (外部評価) 地域のホームの管理者の話合いが、市担当者も出席して行われている。ホームの職員による相互訪問・業務体験も行なわれ、職員の学びが利用者の支援に活かされている。		
21		○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	(自己評価) フィットネスクラブを低料金で利用できるになっている。茶道、華道などのクラブに参加できる。		
22		○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	(自己評価) 職員の資格取得に向けた支援をしている。人事考課を行い向上心につなげている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
23		○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	(自己評価) 事前面接時には、本人の状態把握に努めるようにしている。		
24		○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	(自己評価) 入居時の面接や面会時、家族の心配事、希望などを充分時間をかけて聞いている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
25		○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 本人、家族と話し合い、状態を見極めてサービス利用の紹介、対応をしている。		
26	12	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	(自己評価) なるべく環境変化のストレスを排除させるよう配慮している。 (外部評価) 入居前の見学の時から管理者や職員が関わり、どのユニットに入居が適当かを話し合っている。また、利用者の生活情報を早めに入手し、ケアの参考にしている。利用者は入居当日の朝ホームに入り、午前中は様子を見て、午後から少しづつホームに慣れるよう支援している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
27	13	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	(自己評価) 利用者と共に、喜び、悲しみ、「介護される人」ではなく一緒に暮らしていく仲間として支え合っていける関係を作ることを心掛けている。 (外部評価) 職員と利用者とともに調理をしたり、鉢植えの草花や小鳥の世話をしたり、歌を唄ったり、ラジオ体操をしたりして仲良く過ごしている。利用者に昔の話を聞いたり、料理法を教わることもある。		
28		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 面会や連絡の多い家族には、話し合う機会も多く一緒に支えていく関係も築きやすい。	※	面会にこられない家族に対しては、こちらから積極的に情報提供をしていく。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
29		○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	(自己評価) 本人の状況を細かに知らせるようにし、家族と良い関係が築けるよう支援している。		
30		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 友人や家族の面会を待つ事が多い。	※	外出の機会を増やす。
31		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	(自己評価) 利用者同士の関係性は常に情報共有出来るようにし、できるだけ「共に暮らす」暮らしを考慮しながら、支援している。	※	利用者間のトラブルをなるべく早く察知して、回避する。
32		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	(自己評価) 退所してからも、家族の相談のったり、移転先の他事業所に面会に行ったりしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
33	14	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 本人にとってどうなのか？ということを常に考えながら、会話の中、表情などから、推し量るようにしている。 (外部評価) 普段の会話や表情から、各利用者の好み、楽しみごと、好きな食べ物等を把握し、それらが叶うような支援を心がけている。	※	本人の希望、意向はもっと探っていかなければならないと思われる。「生き甲斐」となるものをどのように築いていくかを常に検討しながらの支援をしたい。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
34		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 本人、家族からの聞き取り等により把握している。生活歴のアセスメントシートに記入していただく。		
35		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	(自己評価) 生活記録表や日々の様子から、ひとりひとりの現状把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
36	15	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	(自己評価) 家族や本人の意見を聞き、ケース会で話し合いながら、ケアプランを作成している。 (外部評価) 2人の職員が1人の利用者を担当する体制で介護計画を作成し、支援を行っている。介護計画は利用者の思いや面会時の家族の意見等を反映して作成するよう努めている。	※	面会の少ない家族との話し合いの機会を増やしたい。
37	16	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	(自己評価) ケアプランの見直しは定期的に行っているが、本人の状態変化があったときは、現状に即したケアプランを作成している。 (外部評価) 介護計画は2週間に1回見直している。利用者の状況に変化が生じた場合は、その都度見直すことにしている。	※	緊急の場合は、家族の参加が難しいことがあるので、変更後の説明を行って、意見を求めていく。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
38		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 個別のケース記録は、介護計画を基に記録し、「気づき」に重点をおいている。	※	さらに、「気づき」を充実させる。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
39	17	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	(自己評価) 本人、家族の希望で通院介助をしている。ショートステイ受け入れがあるが、利用されていない。 (外部評価) 利用者や家族の状況に応じた、急な外出・外泊支援や受診時の送迎等の柔軟な支援を行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
40		○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	(自己評価) 火災訓練を行ったり、図書館を利用したり、地域の文化祭に参加している。		
41		○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	(自己評価) 理美容サービスを利用している。		
42		○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	(自己評価) 運営推進会議に包括支援センターの職員が参加しており、いろいろな情報を得られている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
43	18	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	(自己評価) 利用者各自に主治医がおり、受診の時は職員が同行している。 (外部評価) 利用者や家族の希望にそったかかりつけ医の受診を支援している。受診時の同行は家族の場合と職員の場合があるが、医師への具体的な状態報告が必要な時は、職員が付き添うことにしている。		
44		○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	(自己評価) 市内にある病院の認知症専門医に定期的に受診している。		
45		○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	(自己評価) 同じ施設内の事業所（老健、特養）の看護師に支援してもらっている。		
46		○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	(自己評価) 入院した場合は頻回に面会に行き、常に医療関係者や家族とも早期退院にむけて、調整している。		
47	19	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	(自己評価) 重度化や終末期にむけた対応はしていないが、併設の施設の利用を支援している。 (外部評価) ホームの隣りにある病院の協力で、利用者や家族の意向にそった重度化や終末期の対応ができる体制をとっている。ホームには看護師が勤務して看取り介護の手引も作成されているが、実際的な内容がやや不十分な面もある。	※	看取り介護の手引は要点がまとめられ全員で共有しているが、実際的な介護・看護の内容という点では物足りない感じがある。管理者、職員の細部にわたる話し合いで、さらに実践に役立つ具体的なマニュアル作りを期待する。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
48		○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	(自己評価) 左記の取り組みは出来ていない。		
49		○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	(自己評価) 同一施設内の移動が多く、十分な情報交換ができ、移動後も職員やホーム利用者も訪ねている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
50	20	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	(自己評価) 職員会、ケース会など、機会ある毎に言葉かけ、対応についての留意点を注意喚起し、向上していくように努力している。プライバシーの保護もカンファレンスで再三検討している。 (外部評価) 職員は食事を食べない利用者を、さりげなく自力で食べられるよう支援したり、トイレ誘導の確認を耳元で行なう等、一人ひとりの誇りを大事にした対応をしている。		
51		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	(自己評価) 利用者に応じた質問方法で問いかけ、選択することで自己決定できるように働きかけている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
52	21	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) おおまかな1日の流れはあるが、個人の状況に合わせて柔軟に対応している。 (外部評価) 入浴時間や外出、買い物の希望等は、その日の利用者の都合や思いを尊重して支援している。また、趣味のパッチワーク、ピアノ、茶道等を皆で楽しめるよう環境を整えている。	※	さらに、希望に添えるように努力したい。
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
53		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	(自己評価) 朝の更衣時に本人の好みで整えている。外出の時などは、おしゃれを楽しむよう取り組んでいる。行きつけの美容院を利用している。		
54	22	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 各々の好みの食事を作るようにしている。調理、盛り付け、片付け、も利用者と一緒に、同じ食卓に向かいながら、楽しく食事出来るような雰囲気作りにも取り組んでいる。食事中はBGMを流している。 (外部評価) 朝食と夕食は系列事業所と同じ食事が配食され、昼食は各ユニットで利用者と職員が作っている。職員は利用者と同じ食事を食べながら介助し、ともに会話や食べることを楽しんでいる。食事の後片付けも利用者とともにやっている。	※	昼食だけではあるが、回数を増やす事を検討している(現在18回/月)
55		○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	(自己評価) 本人の体調をみながら、それぞれの希望を支援している。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
56		○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	(自己評価) 排泄記録表を作成して、一人一人の状態を把握し、失敗のないようにさりげなくトイレ誘導をしている。		
57	23	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	(自己評価) 夜間浴は出来ていないが、他は利用者各々の希望に添うようにしている。 (外部評価) 利用者の希望する時間に入浴できるよう支援したり、ひとりで入浴を希望する場合はそれぞれの状況で判断し、支援している。		
58		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々々の状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	(自己評価) 日中に活動性を上げるようにし、夕方からは、就寝に向けて穏やかに過ごせるように支援している。表情や態度をみながら、休息を促している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
59	24	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	(自己評価) 利用者の趣味や経験などを生かしてもらえるような行事、役割などを作り支援している。 (外部評価) 茶道、パッチワーク、ピアノ演奏、歌、体操、調理、食事の片付け、鉢植え植物への水やり等の楽しみや役割を、一人ひとりの力に応じて支援している。	※	生活の質を上げる為に常に利用者と一緒に探求していきたい。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
60		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 利用者の希望、力量に応じてお金を所持して使っている。利用者によっては、出納帳をつけ、面会時に家族に確認していただく。		
61	25	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	(自己評価) 天気の良い日は散歩、買物にでかけている。 (外部評価) 近くの神社や散歩道、スーパーや専門店での買い物等、利用者の希望にそった外出支援をしている。系列事業所の車で少し離れた所へも出かけている。	※	さらにいつでも、どこにでも、外出支援ができるようにしたい。
62		○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	(自己評価) 希望が叶うように支援はしているが、限られた場所になりやすい。	※	遠方の外出を支援していきたい。
63		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 本人の希望に添うように支援している。	※	携帯電話や、はがきなどを利用している。
64		○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	(自己評価) 面会にこられた方が、ゆっくりと過ごせるように茶湯をサービスしている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(4) 安心と安全を支える支援					
65		○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 身体拘束は、決してしてはならないという意識を徹底している。	※	さらに、学習会などで意識強化を図りたい。
66	26	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	(自己評価) 事業所が4階にあるため、各ユニットの玄関の施錠はしていないが、外からの進入口には電子ロックがある。 (外部評価) 管理者や職員は鍵をかけない生活の意義を理解していて、居室や日中の玄関に鍵はかかっているが、安全面に配慮してホームがある4階のエレベーター出入口には電子ロックがある。	※	電子ロックを解除していく方向で検討したい。
67		○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	(自己評価) 職員は、記録などリビングで見守りながらとる様になっている。夜間は1時間毎に巡回している。		
68		○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	(自己評価) 利用者の状態に応じた対応をしている。		
69		○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	(自己評価) ヒヤリハット、事故報告などを作成し、常に事故防止に心がけている。定期的に消防訓練を行っている。		


自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
70		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	(自己評価) 全ての職員が救命救急の研修をうけ、緊急時の対応マニュアルも周知徹底をはかっている。		
71	27	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	(自己評価) 消防署の協力で避難訓練や消火器の使い方などの訓練は行っている。 (外部評価) 消防署の協力を得て、系列事業所とともに避難訓練、消火器具の使い方等の訓練を年に2回、夜間想定でも行っている。ホーム近くの避難場所が不明確であり、地域の人々の協力も十分とは言えない、	※	利用者の避難誘導にあたり、地域やホーム近くの避難場所を確認し、職員に周知することが望まれる。また、災害時に地域の人々の協力が十分得られるよう、機会をとらえての働きかけを期待する。
72		○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	(自己評価) 機会ある毎に左記のように説明している。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
73		○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	(自己評価) バイタルチェックは毎日行っているが、常に状態観察を怠らず、変化があれば、管理者に報告し対応している。		
74		○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 服薬ファイルをケース毎に整理して職員が解りやすいようにしている。新たな薬の服薬時には、特に状態変化に気をつけている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
75		○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かさず働きかけ等に取り組んでいる	(自己評価) 排泄記録表を作成して、排泄状態を把握しながら、食事内容の検討、水分補給を心がけ、身体を動かすような支援をしている。		
76		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	(自己評価) 毎食後の口腔ケアを支援している。	※	義歯のチェックを定期的に行う。
77	28	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 食事の摂取量を記録し、情報を共有している。同施設の管理栄養士にアドバイスをもらっている。 (外部評価) 食事や水分の摂取量は都度チェックしている。栄養バランスやカロリーは系列事業所の栄養士が管理している。	※	体調不良時には細かな水分量の記録をとる。
78		○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	(自己評価) 感染予防委員会があり、マニュアルを作成し、実行している。		
79		○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	(自己評価) 調理器具などは、毎回熱湯消毒し、衛生管理にも努めている。食品はできるだけ毎日買物にでかけ新鮮な物を購入している。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
80		○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	(自己評価) ビルの4階にあるため近隣の人にとって、入りにくい。		
81	29	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) リビング、廊下、和室など季節感をとり入れたしつらえを工夫している。 (外部評価) 玄関や居間は鉢植えの植物・草花が多く配置され、利用者の作品を飾り、畳の間もあって、落ち着いて過ごせる雰囲気がある。浴室やトイレも不快な匂い等なく、清潔である。		
82		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) 和室を利用している。掘りごたつを設置している。ソファで気の合った人どうし過ごしている。		
83	30	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 馴染みの家具や、家族の写真などを置いている。 (外部評価) 居室の入口及び窓には障子が入り、室内には利用者の使い慣れた鏡台、時計、楽器、お気に入りのぬいぐるみ等が持ち込まれ、居心地よく過ごせる部屋である。多くの居室にはトイレや洗面台を設置している。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
84		○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	(自己評価) 毎朝、掃除の時には窓を開け換気を行っている。エアコンの温度はこまめに調整している。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり					
85		○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 段差がなく、廊下、浴室、トイレ内には手すりが付いている。介護用ベッドも利用している。	※	歩行が不安定な利用者の居室内及び脱衣所に手すりが必要である。
86		○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	(自己評価) なにが障害となっているかを見極めて、出来る力を維持するような環境を整えている。		
87		○建物の外周リや空間の活用 建物の外周リやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	(自己評価) 花を植え、水遣りをしたり、小鳥の世話をしたりと楽しんで活動できている。洗濯干し、を設置し活用している。		

(注)

- 1  部分は自己評価と外部評価の共通評価項目。
- 2 全ての自己評価又は外部評価の項目に関し、具体的に記入すること。

V. サービスの成果に関する項目			
項 目	取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	判断した具体的根拠	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	1 ほぼ全ての利用者の (自己 ② 利用者の2/3くらいの 評価) 3 利用者の1/3くらいの 4 ほとんど掴んでいない	
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	① 毎日ある (自己 2 数日に1回程度ある 評価) 3 たまにある 4 ほとんどない	
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	1 ほぼ全ての利用者が (自己 ② 利用者の2/3くらいが 評価) 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	① ほぼ全ての利用者が (自己 2 利用者の2/3くらいが 評価) 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	1 ほぼ全ての利用者が (自己 2 利用者の2/3くらいが 評価) ③ 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	① ほぼ全ての利用者が (自己 2 利用者の2/3くらいが 評価) 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	① ほぼ全ての利用者が (自己 2 利用者の2/3くらいが 評価) 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	1 ほぼ全ての家族と (自己 ② 家族の2/3くらいと 評価) 3 家族の1/3くらいと 4 ほとんどできていない	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	1 ほぼ毎日のように (自己 2 数日に1回程度 評価) ③ たまに 4 ほとんどない	

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	判断した具体的根拠
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	1 大いに増えている (自己 ② 少しずつ増えている 評価) 3 あまり増えていない 4 全くいない	
98	職員は、生き活きと働けている	1 ほぼ全ての職員が (自己 ② 職員の2/3くらいが 評価) 3 職員の1/3くらいが 4 ほとんどいない	
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1 ほぼ全ての利用者が (自己 2 利用者の2/3くらいが 評価) ③ 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1 ほぼ全ての家族等が (自己 2 家族等の2/3くらいが 評価) ③ 家族等の1/3くらいが 4 ほとんどできていない	

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

(自己評価)

身体機能の低下を防ぐように支援していく（足のむくみ緩和のため毎日足浴を行っている。毎日の散歩、家事役割など自然に身体を動かすような取り組みをしている。）